

製品名: Sox-9 (リン酸化 Ser181) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05456**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	SOX9
別名	SOX9; Transcription factor SOX-9
遺伝子 ID	6662.0
SwissProt ID	P48436
免疫原	抗血清は、Ser181 のリン酸化部位周辺のヒト SOX-9 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 147-196

背景

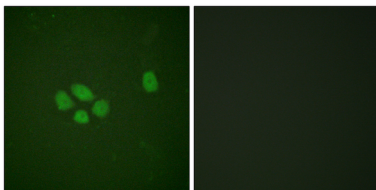
SRY ボックス 9 (SOX9) ホモ・サピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、HMG ボックスクラスの DNA 結合タン

パク質の他のメンバーとともに、CCTTGAG 配列を認識する。軟骨細胞の分化に作用し、ステロイド生成因子1と共に抗ミューラー管ホルモン (AMH) 遺伝子の転写を制御する。欠損は、しばしば性転換を伴う骨格奇形症候群であるカンボメリック異形成症を引き起こす。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患: SOX9の欠陥はカンボメリック異形成症 (CMD1) の原因である[MIM:114290]。CMD1は、まれでしばしば致死的な、優性遺伝性の先天性骨軟骨異形成症であり、罹患した核型男性の3分の2で男性から女性への常染色体性転換を伴う。新生児疾患で、先天性な長骨の弯曲および屈曲、異常に小さい肩甲骨、骨盤および脊椎の変形、および肋骨欠損を特徴とする。口蓋裂、小顎症、扁平顔、眼間開離などの頭蓋顔面欠損がよくみられる。蝸牛、キヌタ骨、アブミ骨、鼓室など、耳の様々な欠損がしばしば認められる。多くの患者は、気管支軟骨の形成不全および胸郭の狭小化に起因する呼吸困難のため、出生直後に死亡する。機能: 正常な骨格発達において重要な役割を果たす。軟骨形成に関与する他の遺伝子の転写因子として作用することにより、それらの遺伝子の発現を制御する可能性がある。類似性: HMG ボックス DNA 結合ドメインを1つ含む。

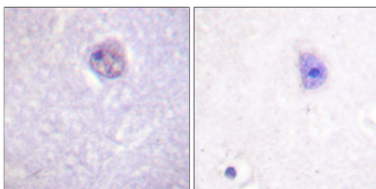
研究分野

神経科学

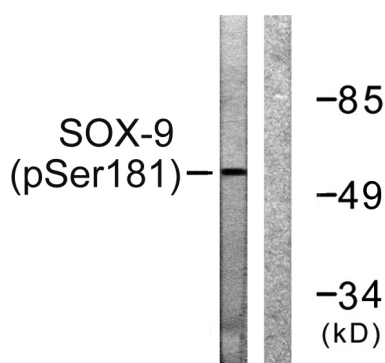
画像データ



SOX-9 (リン酸化 Ser181) 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



SOX-9 (リン酸化 Ser181) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



PBS 60°Cで処理した 293 細胞ライセートの SOX-9 (リン酸化 Ser181) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。